

全国学力・学習状況調査

調査結果の活用

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

調査結果を積極的に活用し、児童生徒の学力や学習状況を多面的に把握・分析するとともに、教育の改善に向けた計画的な取組を実施

※国において教育の改善に向けた全国的な取組を推進

- ◇調査結果の専門的な分析等を行い、教育指導や教育施策の改善に取り組む
例) ・学習指導要領の改訂、各種施策の成果の検証・改善 など
- ◇教育委員会や学校の意欲的な改善の取組に対して必要な支援等を行う
例) ・教員の配置等への支援、改善の取組に役立つ情報の提供、各種施策を活用した支援 など

※教育委員会において域内の教育の改善に向けた取組を推進

- ◇調査結果を多面的に分析し、保護者や地域と連携しながら、教育指導や教育施策の改善に取り組む
- ◇学校の改善に向けた取組等に対して必要な支援等を行う
例) ・教員の配置等の工夫、教員研修の充実、教育指導等の改善のための資料の作成 など

※学校において教育指導等の改善に向けた取組を推進

- ◇児童生徒の学力や学習状況を多面的に分析し、教育指導の成果や取り組むべき課題を把握する
- ◇学校の教育指導、児童生徒一人一人の学習状況等の改善に向けて計画的に取り組む
例) ・明らかになった課題を踏まえた、全学年・全教科における授業改善の取組
・児童生徒の学習状況等の改善を図るため、個に応じた指導等を実施
・教育指導の改善のための校内研修の実施 など
- ◇保護者や地域と連携しながら、学習習慣や生活習慣等の改善に取り組む
例) ・家庭における学習習慣や生活習慣の確立に向けて保護者に働きかけ
・地域のボランティア等の協力による、放課後等における補充学習の実施 など

※教育における継続的な検証改善サイクル(PDCAサイクル)を確立



P: Plan (計画)
D: Do (実行)
C: Check (評価・検証)
A: Action (改善)

平成21年度調査実施日: **4月21日(火)**

- #### ※調査の目的
- ◇国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図る
 - ◇各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る
 - ◇各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導や学習状況の改善等に役立てる

※調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

※調査内容 ①教科に関する調査(国語、算数・数学)

主として「知識」に関する問題

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として「活用」に関する問題

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
(例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況など

学校に対する調査

- 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査
(例) 学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

※時間割 ※問題冊子等の配付、解答用紙の回収等については、各時限中、解答時間の前後で行う。

◎小学校

1時限目 (45分)	2時限目 (45分)	3時限目 (45分)	
国語A (20分) 算数A (20分)	国語B (40分)	算数B (40分)	児童質問紙 (20分)

※児童質問紙は、4時限目以降に、各学校の状況に応じて実施。

◎中学校

1時限目 (50分)	2時限目 (50分)	3時限目 (50分)	4時限目 (50分)	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	生徒質問紙 (20分)

※生徒質問紙は、5時限目以降に、各学校の状況に応じて実施。

❖ **出題の内容例**

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<p>〔国語A〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き、言葉の意味 目的や場面に応じた言葉の使い方 情報を整理してまとめること 文章の内容などに関する情報の取り出し <p>など</p>	<p>〔国語B〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えるべき内容を整理して、文章に表現すること 筆者の主張を評価したり、表現を工夫しながら自分の考えを書いたりすること 文章やグラフ・図表等を読んで、意見をまとめること <p>など</p>
<p>〔算数・数学A〕</p> <ul style="list-style-type: none"> +、-、×、÷、()の演算順序を意識して正しく計算すること 図形の性質を理解し、角度や面積などを求めること グラフから変化の様子を読み取ること 確率の意味を理解し、求めること <p>など</p>	<p>〔算数・数学B〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 図やグラフから必要な情報を分類、整理、比較するなどして、問題の解決に役立てること 問題の中から規則性を見つけて、考え、表現すること 実生活などの様々な場面における数量やデータを比較、整理し、自分の考えを分かりやすく説明すること <p>など</p>

❖ **問題例：平成20年度調査より**

※平成20年度全国学力・学習状況調査（平成20年4月22日実施）の全問題については、
<http://www.nier.go.jp/O8tyousa/O8tyousa.htm> を参照。

小学校・国語B冊子 **聞き方を工夫する〈先生へのインタビュー〉**

1. 新聞委員会の中田さんたちは、新しく来た先生を歓迎しようとするために、インタビューをする予定です。中田さんたちは、先生にインタビューする質問を考えています。中田さんたちは、先生にインタビューする質問を考えています。中田さんたちは、先生にインタビューする質問を考えています。

2. 先生は、先生にインタビューする質問を考えています。先生は、先生にインタビューする質問を考えています。先生は、先生にインタビューする質問を考えています。

中学校・数学B冊子 **事象の理想化・単純化（富士山の気温）**

5. 里奈さんたちは、下のパンフレットを見ながら、8月に行く「富士五湖めぐり」と「富士山6合目登山」の計画を立てています。

富士山 3776m
 5合目 2500m
 6合目 2000m
 河口湖 1000m

表 y は x に比例している。
 イ y は x に反比例している。
 ウ y は x の一次関数である。
 エ x と y の積は一定である。
 オ x と y の差は一定である。

(3) 里奈さんは、富士山周辺と山頂の8月の平均気温を調べました。そして、下の表のようにまとめ、高さ(標高)x mのときの気温をy℃として、グラフに表しました。

観測所	標高(m)	平均気温(℃)	観測所	標高(m)	平均気温(℃)
A(甲斐市)	273	27.7	D(河口湖)	860	23.3
B(河口)	394	26.7	E(山頂)	992	21.7
C(河口)	552	24.9	F(富士山)	3775	6.4

里奈さんは、「高さが高くなるのにもなって、気温が一定の割合で下がる」ことをもとに、表やグラフのDとFのデータを用いて、6合目のおよその気温を求めることにしました。

● **出題の趣旨**
 相手や目的、状況に応じた内容を取り上げ、適切な言葉遣いで聞くことができるかどうかをみる。

● **出題の趣旨**
 与えられた情報を読み、次のことができるかどうかをみる。
 ・与えられた情報を分類整理すること
 ・事象を理想化・単純化して、その特徴を的確にとらえること
 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

国による公表

- ◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表
- ◇児童生徒の学習習慣や生活習慣、学校における指導方法や教育条件の整備状況等と学力の相関関係を分析、公表

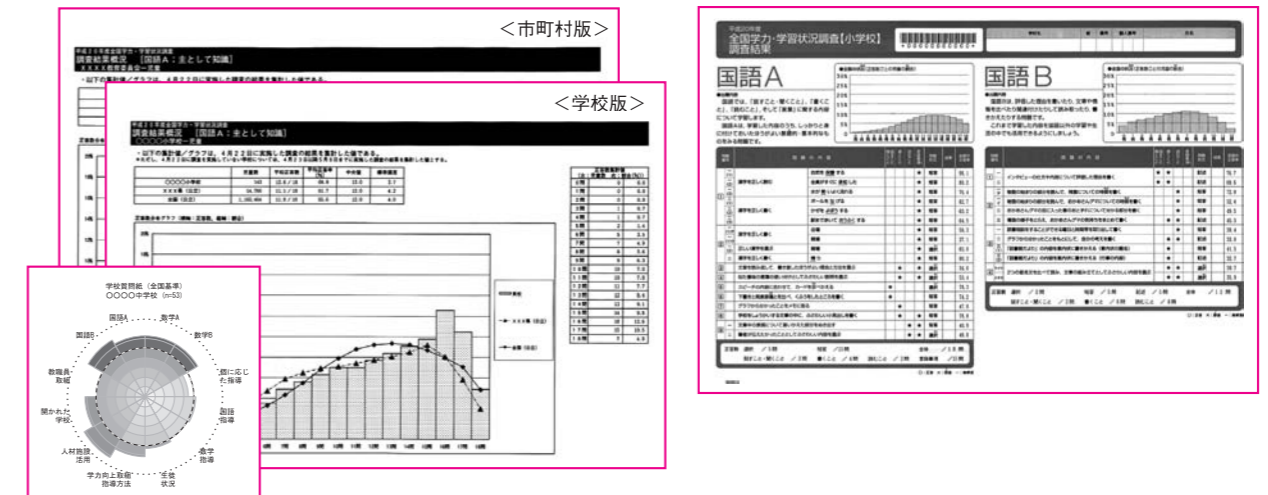
(公表する調査結果のイメージ)



教育委員会、学校等に各々の調査結果を提供

- ◇都道府県教育委員会、市町村教育委員会、学校に各々の調査結果を提供
- ◇児童生徒に対しては、設問ごとの正答や誤答の状況などが分かる個人票を提供（答案は返却されない）

(提供する調査結果のイメージ)



- ◇調査結果は、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要
- ◇学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮し、市町村や学校の公表はそれぞれの判断に委ねる（市町村教育委員会や学校は自らの結果を保護者等に説明することが可能）
 ※調査結果は、入試の資料として用いられるものではない。